

(1) 青森県立青森高等学校

外国人観光客に寄り添う多言語表示のご提案



政策を考えた青森県立青森高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！



おおば りせ (2学年)
大庭 理世 (2学年)

私たちがもうすぐ持つその一票を、社会を大きく変える可能性があるものと恐れるのではなく、「自らを映す希望の一票」として捉えられる社会にしたいです。



とうかい けいいちろう (2学年)
東海 圭一郎 (2学年)

貴重な体験をすることができて良かったです。緊張しましたが新鮮でした。



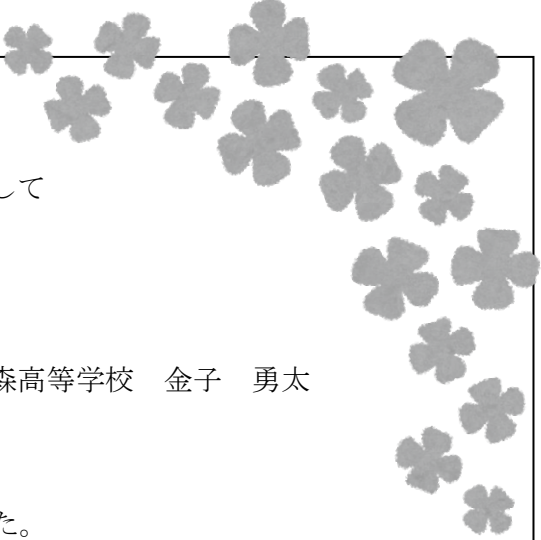
ながはた さくらこ (2学年)
長畑 桜子 (2学年)

10年後も20年後も故郷である青森が存続できるように、これからの時代を担う私達が、自分事として認識して政治参画をしていくべきだと思いました。

議員の方々から鋭い質問を頂き、改めてグループで案を練り直しました。こうしたブラッシュアップで政治がより良くなっていると実感できる素晴らしい機会でした。



みぞえ ゆうご (2学年)
溝江 優吾 (2学年)



高校生模擬議会に参加して

青森高等学校 金子 勇太

今年度初めて高校生模擬議会に参加させていただきました。

本校は、学習活動において「探究活動等の中核的な役割を担う重点校」という役割を担い、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール事業の指定を受けており、県内外、そして国際社会に貢献できる科学技術系グローバル人材の育成に取り組んでいます。生徒に将来の夢を聞くと、国際社会で活躍する人材になりたいと答える人が多くいます。

そのような中で、生徒は地域の現状や課題をどのくらい把握しているのかという疑問にぶつかりました。当然、グローバルな視点で物事を考えていくことが今後さらに求められますが、肝心の足下、つまり青森県の現状をグローバルな視点で考察する場面も必要ではないかと考えました。そこで、高校生模擬議会への参加を通して、改めて青森県の現状と課題について理解し、その解決策を「グローバル」な視点で考える機会を設けることにしました。

グループワークを通して、生徒たちは自分たちの故郷である青森県の素晴らしさや課題について理解を深めたことは、事後の振り返りシートからもうかがえます。

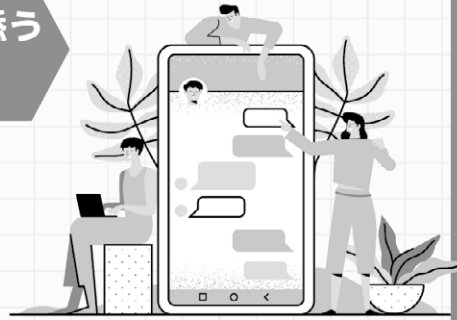
代表グループが模擬議会において、実際の県議会議員の方々に政策提案をしたことは、政治への参加意欲を非常に高めました。主権者として選挙を通して自分の意思を示すことだけでなく、自らが主権者の代表として県政に携わる側になりたいという意欲をもつ良い機会になったと思います。今回、経験させていただいたことが、将来の青森県のさらなる発展に少しでも役立てればいいと心から願っています。

最後になりますが、このような機会を与えて下さった県選挙管理委員会の皆様、ワークショップで御指導いただいた藤井先生、真摯な姿勢で提案を聞いてくださった県議会議員の方々に心から感謝申し上げます。

外国人観光客に寄り添う 多言語表示のご提案

青森高等学校

溝江優吾 大庭理世
長畑桜子 東海圭一郎



1

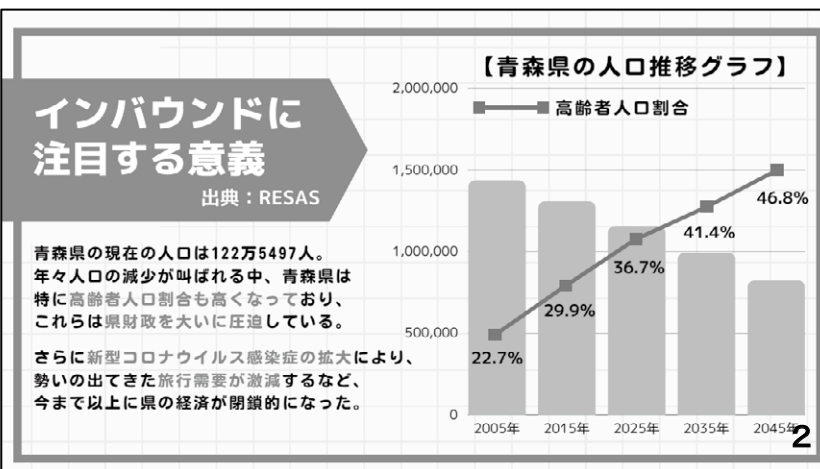
私たち青森高校は「外国人観光客に寄り添う多言語表示」というテーマでご提案させていただきます。

まず私達がインバウンドに注目する意義は「縮小傾向にある県経済を盛り上げる」です。



経済規模縮小の原因として「県人口が減少傾向にあり、高齢者人口の割合が増加傾向にある」などが挙げられます。

現在の青森県の人口は122万人程で、そのうちの高齢者割合は36.7%と非常に高く、2045年には人口が80万人程まで減少し、高齢者割合は46%にまで上昇すると予想されています。



人口減少は、労働力の減少に直接結びつきます。

労働力減少は企業の経営規模を縮小させ、生産性が落ちてしまうことが予想されます。

また、高齢化が進むことで不安な将来に備えて貯蓄を行う若者が増加し、過去の貯蓄を切り崩して生活する高齢者の割合が増えることで社会全体で消費が促されなくなり、結果的に経済規模が縮小してしまいます。

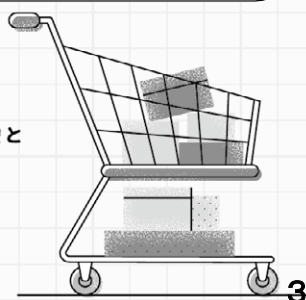


さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により勢いの出た旅行需要が激減してしまい、県経済の縮小に拍車をかけました。(2)

インバウンドに 注目する意義

出典：三菱UFJ銀行

1ドル=148円



加えて、今現在(R6 1月)、1ドル=148円の円安となっており、訪日外国人から獲得できる外貨が増えている現状にあり、**訪日外国人の消費が促されれば、さらに大きく外貨を得られるようになる。**

初めは、この人口問題を解決すべきと考えましたが、県人口や若者を増やすには、まず経済的に余裕のある県であるという魅力のベースが必要不可欠であると考え、他の観点から経済の盛り上げを考えることが先決であると思案しました。



経済の盛り上げの現状として、円安ドル高であり、青森県が外国人観光客から得られる経済効果が大きく、外国人が訪れてみたい都道府県ランキングで青森県が6位を獲得するなど、多くの外国人の方々に興味を持ってもらっています。(3・4)

インバウンドに 注目する意義

出典：青森県庁ホームページ

内容

訪日インバウンド関連事業等を展開するTokyo Creative株式会社(東京都墨田区)が令和5年6月12日付で公表した、日本以外の国籍を持つ外国人に対して実施した「日本旅行で訪れてみたい都道府県とその際に活用するSNS」に関する調査結果において、本県が訪れてみたい都道府県の6位になりました。

さらに2023年6月の調査によると

「外国人が訪れてみたい都道府県ランキング」の第6位に青森県が選ばれた。
興味をもってもらっている現状に乗じて、外国人観光客をたくさん呼び込みたい。

以上のことから、今インバウンド事業に力を入れることで、
これまで以上に訪日外国人の旅行消費を促し、諸問題によって圧迫された財政を賄い、
青森県経済を盛り上げることができると考える。

一昨日yahoo (ヤフー) ニュースで、中国のSNSのWeibo (ウェイボー) における青森県公式アカウントのフォロワー数が130万人を突破し、その数が青森県の人口を超えたというニュースを拝見しました。

実際に外国人の方々が青森県に観光地としての魅力を感じているという現状を実感しました。



このように経済規模縮小を解決するために、円安や外国人からみた青森県の人気向上しているという現状を活用するにはインバウンド拡大が最も適していると考え、インバウンド事業に注目しました。

現在の青森県における インバウンドの課題



課題 01

英語や中国語以外の
言語表記が少ない

主要な言語である英語や中国語は意図的に表記されることが多いが、ほとんどの言語はこれらに比べ、表記されている例が少ない。

課題 02

観光名所の場所が
わかりにくい

交通機関の中核である「青森駅」や「青森空港」から多くの観光名所への交通手段が明記されておらず不親切。

課題 03

語学に長けた人材を
探すのが難しい

外国人観光客への案内や対応に必要なレベルの人材を集めることは極めて困難。言語教育も難しい。

5

具体的に、現在の青森県におけるインバウンドの課題について説明します。

私達青森高校は、現在の青森県におけるインバウンドの課題として、英語や中国語以外の言語表記が少ない、観光名所の場所が分かりにくい、語学に長けた人材を探すのが難しいということが挙げられると考えました。(5)



今現在、英語や中国語、韓国語が多く表記されています。

右上の写真は青森駅西口のタクシー乗り場の看板、下の写真は新青森駅のプラットフォーム内の看板です。(6)

青森市内での実際の 他言語表記の例



写真のように、英語や中国語、韓国語は既に意識的に表示されているが、それ以外の言語表示が少ないことがわかる。



6

この他にも青森駅の音声ガイド付き情報案内板など、多くの案内板で英語や中国語、韓国語以外の言語表記はなされていませんでした。



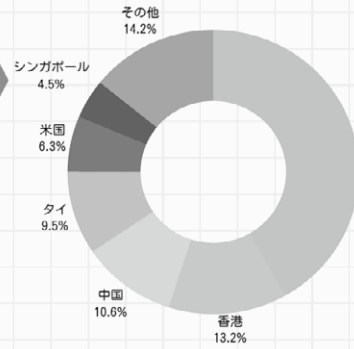
英語や中国語、韓国語以外の言語表記が少なければ、それらの言語を使わない外国人観光客は表示された案内を完全に理解することができず、青森旅行を満喫しきってもらえないと思います。

2023年 10月の青森県における 国・地域別外国人宿泊者割合

出典：観光庁 宿泊旅行統計調査

右図から、台湾や香港をはじめとして、青森県に訪れる外国人観光客のほとんどが、英語話者ではないことがわかる。

特にアジアからの訪日が多いことから、青森県の多言語表記問題の解決には、中国語やタイ語、シンガポールでも使用されることがあるマレー語などの、「アジア圏の言語を多く取り入れること」が必要不可欠であると考えられる。



7

実際に青森県に訪れる外国人観光客の殆どは、アジアからの訪日が多く、よく表記されている英語や中国語、韓国語だけではアジア圏の言語を賄いきれない面が大きいという現状があります。

そのために、アジア圏からの観光客が多い青森県では、現在たくさん表記されている英語、中国語、韓国語以外に、多くのアジア圏言語を表記することが必要だと考えます。(7)



しかし、看板や案内板にたくさんの言語を表記することは難しく、現実的ではありません。

さらに、アジア圏の外国人観光客への案内や対応のできるスタッフをたくさん雇うこと、多言語教育を完璧に実施するということは実際問題として困難です。(8)

アジア圏の多様な言語

出典：外務省

右のように、アジアには多種多様な言語が存在する。よって、これらの多くの言語を「案内スタッフ」や「紙媒体の地図」などで完全に網羅することは、ほぼ不可能である。

そこで我々は次のことを提案する。

中国語	韓国語
タイ語	マレー語
ベトナム語	タガログ語
インドネシア語	ラオス語

etc...

8

それに加え、青森駅や新青森駅、青森空港など、青森県への玄関とも言える中枢の交通拠点では、青森県に点在する多くの観光スポットへの交通手段などが明記されておらず、観光スポットの場所自体が分かりにくくなっています。



やはり、どれだけ観光スポットの魅力を伝えても、行き方が分かりにくければ、足行きが伸びないと考えます。

外国人観光客にとって言語も分からず行き方も分からなければ、青森県を遊び尽くすことは困難です。

そこで私達は、デジタル地図サイネージの設置を提案します。

デジタル地図サイネージ 設置のご提案

9

具体的に、デジタル地図サイネージの説明をします。

デジタル地図サイネージ 設置のご提案

00

デジタル地図サイネージとは？



タッチパネル式の
多機能電子案内板のこと

10

まず、デジタル地図サイネージは、タッチパネル式の多機能電子案内板のことです。

千葉県のパウアン駅で導入されたサイネージは、大きな画面にピクトグラムが表示され、ワンタッチで操作が可能です。

デジタル地図サイネージの 実際のイメージ

出典：YouTube 表示灯コーポレートサイト

次の動画は、千葉県のパウアン駅で
実際に導入されたデジタルサイネージです。

11

このサイネージは、設置場所付近の情報提供に特化しており、画面操作で、地図内の広い範囲の近隣施設情報などを常時表示しています。

特に施設リストも設けており、スポーツや公共施設、お食事処など、項目別に分けて表示しています。



画面操作で地図内近隣施設等の情報を表示

12

他にもバス乗り場案内や見やすいバスの時刻表、近くのお勧めのお店や県内のお勧めの観光地、さらには地域の行政情報も表示しています。

日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語に対応しており、言語数を増やすことも可能だそうです。(10~12)

もう1つの例として、19頁の写真をご覧ください。東武日光駅の「ハイレゾ・ナビタ」というサイネージです。



日本語、英語、中国語の簡体、繁体、韓国語、タイ語の6か国の言語に対応しており、バス路線や時刻表、バス乗り場案内を高画質ディスプレイで表示しています。写真の通りデフォルメされた鳥瞰図を採用しており、観光スポットが一目で分かるようになっています。(19)

このような先行例も踏まえ、サイネージ導入に際し、全体で3つ提案します。

提案①



01

サイネージでの 多言語表示を実施

英語表記はもちろん、青森県へ訪れる割合の高い
アジア圏の言語での表記も積極的に行う。

13



1つ目に、サイネージでの多言語表示です。表記される機会の多い英語や中国語、韓国語はもちろん、青森県へ訪れる割合の高いアジア圏の言語表記に力を入れる必要があると思います。

これは青森県に訪れる国、地域別外国人観光客の割合のグラフにもあったように、主要言語以外の言語を使う外国人観光客に向けた取組です。(13)



2つ目に、青森県の観光名所を地図でピックアップすることを提案します。

現在の青森県では、観光名所を知る機会が少なく、青森県がお勧めする観光スポットが不明瞭であると感じました。

そこで、サイネージの大画面で青森県が勧めたい観光スポットを表示することによって、誰でも分かりやすく目に飛び込めます。

提案②



02

交通機関で わかりにくい点

- 青森駅前にはバスの停留所が多く、どれに乗れば良いかわからない。
- バスや電車の時刻表が読みにくすぎる。
By青高生

青森県の観光名所を 地図でピックアップ

今まで分かりにくかった青森の観光名所への「ルート」「交通手段」「時刻表」などを取り上げることによって、観光客の旅行のプランが明瞭になり、足を運んでもらいやすくなる。

14

これは今まで行く予定の無かった観光スポットに新たに人を呼び込む方法の1つになると考えています。(14)

3つ目に、青森空港、新青森駅、青森駅の3か所に設置することです。(15)



外国人観光客にとって青森県の玄関ともいえる青森空港と新青森駅、桜祭りのある弘前公園などの青森県屈指の観光スポットへの移動に利用する青森駅にサイネージを設置するべきであると考えています。

この3か所は交通機関の拠点であり、殆どの外国人観光客がこれらの施設を経由するため、設置による効果が大きくなると考えます。(15)

提案③

03

青森空港、新青森駅、青森駅の 3箇所に主に設置

青森県への観光の際、ほとんどの訪日外国人の
入り口となる青森空港と新青森駅。
桜祭りのある弘前公園などの観光地への移動手段に
電車を使う場合、必ず利用する青森駅に設置。
主要箇所ゆえ、訪日外国人の目に留まるようになる。
他にも観光地である弘前公園や奥入瀬溪流などにも
設置すると効果があると考えます。

15

さらに、青森空港、新青森駅、青森駅を利用する青森高校生を対象に「青森県の交通拠点で分かりにくいところ」と題してアンケートを取ったところ、青森駅前にはバスの停留所が多くどこに乗ればいいのか分からない、バスや電車の時刻表が読みにくいという意見がたくさん見られました。



普段から利用する我々ですら不明瞭であると感じているものは、初めて訪れた外国人観光客にとってかなり難しいものであると考えます。

そこで千葉県浦安駅に設置されたサイネージのように、バス乗り場案内や見やすいバスの時刻表を表示すると、さらに移動手段として利用しやすくなり、多くの観光スポットにも足を運んでもらえるようになります。



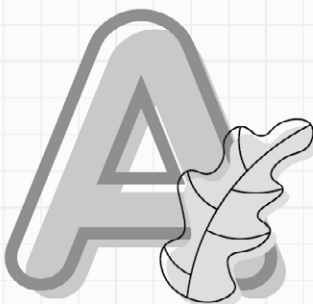
他にも外国人観光客が多く訪れる観光スポットである弘前公園や奥入瀬溪流などにもサイネージを設置すると、さらに効果があると考えます。

以上3点をご提案させていただきます。

デジタル地図サイネージ 導入のメリット

外国人観光客が安心できる

言葉がわからないことは、旅行においてかなりの不安要素。外国人観光客の方々が、青森を最大限遊び尽くすためには、慣れ親しんだ言語があることは欠かせないだろう。



16

サイネージ導入のメリットについて説明します。

まず、サイネージ導入のメリットの1つ目は、外国人観光客が安心できる旅行先になるということです。

詳しく調べた旅行先であっても案内が理解できないことは、外国人観光客にとってかなりの不安要素になりかねないと思います。



サイネージで自身の話す言語を選択し利用していただければ、外国人観光客の方々に安心して旅行を楽しんでもらうことができ、もう一度青森に来たいという青森県へのリピーターを着実に増やすことができると考えます。(16)

デジタル地図サイネージ 導入のメリット

観光名所の場所が丸わかり

観光名所の場所が一目でわかるようになり、行く予定のなかった施設にまで足を運んでくれるようになる。それにより今まで以上に、県の経済発達が見込まれる。



17

続いて、サイネージ導入のメリットの2つ目は、観光名所の場所が一目で分かるということです。

先ほど提案させていただいたとおり、青森県がお勧めする観光スポットをピックアップして分かりやすく表示することで、新聞の記事と同じように、自分が興味を持っていなかったことでも一律に目に飛び込んできます。



これは行く予定の無かった施設にまで足を運んでもらうチャンスを作り、今まで以上に観光業を盛んにし、県経済の盛り上げに貢献すると考えています。(17)



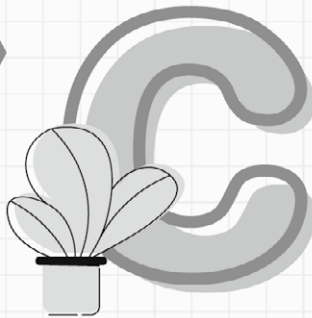
最後に、サイネージ導入のメリットの3つ目は、語学堪能な人材の大量登用、言語教育が不要になるということです。

サイネージは多言語表示が可能で、案内や表示の紹介など様々なシチュエーションに対応しています。

デジタル地図サイネージ導入のメリット

語学堪能な人材の大量登用・言語教育が不要に

外国人観光客への案内や説明に必要な人材をサイネージ一台で、ある程度カバー可能。施設のスタッフもある程度の言語能力さえあれば問題なく対応できるようになるため、働き手の不安も解消できる。



18

よって、外国人観光客への案内や説明に必要な人材を、サイネージ1台で、ある程度カバーすることができると考えています。

施設のスタッフも、ある程度の言語能力さえあれば、問題なく対応できるようになるため、働き手の不安も解消できると考えます。(18)



このように、サイネージ導入には多くのメリットがあり、インバウンド拡大に大きく貢献できます。

サイネージの導入の先行例

東武日光駅 「ハイレゾ・ナビタ」

記載される情報の多言語化を実現。日本語、英語、中国語（繁体・簡体）韓国語、タイ語の6つの言語での表示を4Kディスプレイで可能に。常に日光駅発着のバス路線や乗り場案内を表示。



出典：表示灯株式会社

19

ご提案の まとめ

青森県は…

インバウンド拡大への課題点が多い！
→サイネージ設置で、諸課題を一気に解決！



20

本日の提案のまとめです。
私達青森高校は、縮小傾向にある県経済を盛り上げるという意義の下、インバウンド拡大のため、サイネージ設置を提案させていただきました。



多言語に対応したサイネージを実際に設置し、たくさんの外国人観光客が安心して青森県を旅行できるようになります。

そして観光スポットのピックアップ表示で、元々行く予定の無かった観光スポットを訪れてもらえるよう興味をかき立て、実際にインバウンドを拡大させ、観光業が盛んになり、縮小した経済がより一層盛り上がると思います。(20)



サイネージの設置についてぜひ検討いただきたいです。

●^{たにかわ}谷川 ^{まさと}政人 議員（自由民主党）

（谷川議員）



県立青森高等学校の皆さんから、青森県のインバウンド事業に注目し、外国人観光客に寄り添う多言語表示についてのご提案でありましたが、県内を訪れる国内及び外国の多くの観光客の目線に立った、素晴らしい提案であったと思います。

青森県は元より、各市町村においては多くの観光客の皆様のためを思いながら、これまで様々な場所へ案内表示板を設置してきたとはいえ、ご指摘いただいたとおり、外国人の観光客の皆様にとってみれば、案内表示の言語表記は日本語のほか、英語や中国語、韓国語などが主であり、タイ語やベトナム語、マレー語などの表記は殆ど無く、こうした言語を使われる方々には大変ご不便をお掛けしたものと、私も問題意識を持っております。

ご提案いただいたように、デジタル地図サイネージを訪日外国人の入口となる空港や駅などへ設置することによって、言語の不安も無く、数多くの観光名所の案内ができるようになることは、訪日外国人にとって非常に良い取組であり、県としても早急に取り組むべきご提案であると感じたところでもあります。

そこで、1点お伺いしますが、私は弘前市出身であり、これまでも弘前城や桜祭りなどに多くの外国人観光客が訪れており、いつもスマートフォンを片手に行き先を検索している外国人を見かけますが、スマートフォンとは違って、デジタル地図サイネージを設置することのメリットは何だとお考えになっているのかお伺いします。

（答弁）



日本は現在、訪日外国人に対してのネット環境の整備がなされていないというのが現状です。

具体的な例を挙げますと、フリーワイファイの接続が困難であったり、海外のネット回線を使うため、そのための追加料金が必要になるなどの不都合が生じます。その不都合を解消するためにも、スマホの使用よりもサイネージの利用のほうが適していると考えます。

また、サイネージはその地域に特化した造りになっているため、スマホの地図よりも専門性が高く、それでいてスマホよりも画面が大きいため、必要な情報が分かりやすいという利点が挙げられます。

（谷川議員）

ワイファイの整備もまだ日本は行き届いていない点もありますので、今ご答弁いただいたようなことを、日本としてもしっかりやっていかなければいけないというふうに感じています。

今回ご提案いただいた外国人観光客に寄り添う多言語表示についての取組は、民間企業の率先した広告宣伝の取組が特に目立ってきておりますが、先ほどご提案にあったように、千葉県浦安市をはじめ、全国の各自治体において、少しずつ取組が進められてきていると認識しております。

皆さんのこの度のご提案を参考にしながら、青森県及び各市町村がしっかりと取り組んでいけるよう、私も働きかけをして参りたいと思います。

（小笠原議員）



具体例なども交えまして、非常に説得力のあるご提案でありました。最近のニュースでも、中国の春節などでたくさんの観光客がこの青森にいらっしゃっていると。私の肌感覚としても、この新町付近であったり、柳町であったり、本町であったり、商店街の方々、お店の方々も、外国人に対しての対応が難しいなど、行政にどうかしてほしいなというのを、私も聞いているところでありました。

そういった中でこのデジタルサイネージというのは、非常に具体性がある、いいご提案だと思いました。

ただ、行きやすい場所であれば、このデジタル地図サイネージで辿り着けるかもしれないんですけども、青森では交通機関が乏しい場所もあります。そういった交通機関が乏しい場所に行きたい観光客については、どのように対応すべきとお考えでしょうか。

（答弁）



交通機関が乏しい場所というと、電車かバスが通っていない場所だと思いますが、そういった場所への移動手段としては、やはりタクシーが一番現実的であると考えます。

駅や空港にはタクシー乗り場があるものの、車通りの少ない場所で利用したい場合は、タクシーを呼び出す必要があるため、電話対応が難しい外国人観光客には、配車アプリの利用を推奨すべきかと思えます。

例えば、青森県でも一部で利用可能なタクシーアプリ、GO（ゴー）では、日本人以外のユーザーも利用しやすいように設計されており、キャッシュレス決済にも対応しているため、外国人観光客にとって便利なサービスであると考えます。

観光庁の訪日外国人消費動向調査によると、2019年の訪日外国人のタクシー利用率は24.6%で、鉄道に次いで2番目に高い割合を占めていました。

鉄道の本数や駅の数が首都圏に比べると少ない青森県では、タクシーをより外国人にとって利用しやすいものとするために、アプリの提携会社を増やしたり、外国人向けに割引サービスを実施する等の対応が必要だと思えます。

（小笠原議員）

タクシー、そしてタクシーの配車アプリを利用して、そういった問題を解決していけばいいのではないかというご回答ありがとうございました。

今後どんどん青森に観光客の方々、訪日の外国人の方々が、訪れると思えます。ただ受け入れる体制というのが、青森ではまだまだ整えられていないというのが現状です。

そういった中で、私達議員だけではどうしても答えが出ないこともあり、皆さんのような若い考えが必要だと思っています。皆さんの声を私達議員もきちんと届けて、青森県政を発展させるために邁進してまいりたいと思えますので、今後ともよろしくお願ひします。

(夏坂議員)



青森県における今後のインバウンドの拡大に向けて、現状の課題を明らかにした上で提案されたデジタル地図サイネージは、多言語対応で分かりやすく目的の観光名所を調べることができ、様々な国からの外国人観光客に安心して移動してもらうことができる、大変有効なツールであると感じました。

デジタル地図サイネージを利用して行きたい場所に辿り着いた後、どう支援をしていくのか、また観光案内や次の観光地、宿泊場所への行き方の案内など、外国人が観光地を回りやすい、回遊性ですね、そういう環境を作っていくことも私は重要ではないかと考えます。

そこで、そういったことのために、どのような対策をとればよいと考えているのかお伺いします。

(答弁)



外国人観光客の方々が観光地を回りやすい環境にするために、私達青森高校では、掲示板に貼ったQRコードを、各地の観光スポットに設置するという方法がよいと考えました。

設置するQRコードは、その観光スポットの詳細についてのものであったり、近くの観光スポットや宿泊施設とその行き方についてのものであったり、用途によって数枚に分割したQRコードがよいと考えています。

全ての観光スポットにサイネージを設置するという事は現実的に考えて不可能に近いですが、QRコードであれば手軽に設置することができますし、外国人観光客の方々も手軽に利用できると考えています。

(夏坂議員)

先ほども言及されておりましたが、外国人が訪れてみたい都道府県ランキングで青森が全国6位ということで、本県の観光資源というものが、外国人からみて本当に魅力有るものと映っており、だからこそ、本県を訪れた方々に、県民を挙げておもてなしの心で迎え入れる体制が必要と思っております。

ご回答のQRコード、まさに時宜を得た、デジタル技術を活用しての使いやすい取組かと思えます。

青森県も今後DXの推進に力を入れていくところでありまして、観光分野においても、特にインバウンド対応を進める上では、デジタル技術を最大限に活かした観光戦略が重要でありまして、その意味でもご提案のあったデジタル地図サイネージを始め、先ほどもお話が出ております、さらなるWiFi環境の整備、施設のキャッシュレス化、こういったところの課題をしっかりと解決して、より一層進めていく必要があると私も思っております。

ぜひ皆さんからの斬新なアイデアを活かしながら、一緒になってこの青森県の観光政策を盛り上げていければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

（質問）



青森県は県経済を盛り上げるためにインバウンドにかなり力を入れていることが分かりました。また、「外国人が訪れてみたい都道府県ランキング」では第6位に選出されたように、青森県が外国人に人気である現状に乗じて、インバウンドを拡大させていくべきであると考えましたが、青森県としては、数ある事業のうち、インバウンドに力を入れているのは他にどういった理由がありますか。

2点目に、私たちの提案は、県全体を見てアジア圏の観光客が多いという事実に基づき作成しましたが、地域ごとの観光客の違いを調査することに難儀しました。そこで、三沢周辺には米軍基地があるため、アメリカの方が多く住んでいるという現状があると思いますが、その周辺は観光客としてもアメリカの方が多く傾向にありますか。もし地域ごとに、観光客に大きな違いがあるのであれば、その異なる観光客向けの取組が必要だと思いますが、青森県では実際にどのような取組を行っていますか。

●観光国際戦略局 観光企画課

（観光企画課長）



県が、国内外からの観光客誘致に積極的に取り組んでいる理由の一つとして、観光は宿泊・飲食・交通などの分野をはじめ、関連する農林水産業や清掃・クリーニング等の各種サービス業など、幅広い産業に大きな経済的効果をもたらすことが挙げられます。

特に外国人旅行者は消費額が大きく、コロナ禍前のデータになりますが、2019年の訪日外国人旅行消費額の4.8兆円は、日本の輸出産業の中でも3番目に多い規模となっています。

また、今後人口減少が進行する中で、人口が1人減少すると年間消費額が130万円減少しますが、外国人旅行者を8人増やすことで相殺されることが推計されており、インバウンドの誘客促進は、人口減少が進む地方を活性化する起爆剤として期待されているところです。

また、経済面以外の効果としては、地元住民が観光客向けの地域づくりを通じて、日常の地域資源を見直し、地域への愛着や誇りを感じるようになることや、外国人とのふれあいを通じて、国際的な相互理解を深めることなどが挙げられます。

●観光国際戦略局 誘客交流課

(誘客交流課長)



外国人観光客の訪問地など、動態の詳細がわかる統計や調査はありませんが、外国の旅行会社へのヒアリング等では、外国人観光客の訪問地は国・地域別で大きな差異はなく、その多くは弘前城、奥入瀬溪流、十和田湖など本県を代表する観光地を訪れていると思われます。

一方で、観光庁の調査等では、外国人観光客の旅行形態や嗜好などは、国・地域毎に異なり、本県を訪れる外国人観光客については、例えば、韓国は少人数でのゴルフ、スキー、温泉などを目的とした短期滞在が多い、台湾は紅葉、桜、雪の時期の需要が高い、中国は、北京冬季オリンピック以降、ウインタースポーツのニーズが高い、香港は訪日リピーターが多く、四季折々の美しい自然や食など都市部とは異なる魅力を求める、米国では歴史、文化など背景にあるストーリーを求めるなどといった傾向があります。

そこで、県では、各国・地域の観光客の嗜好に応じて、SNSや多言語版ホームページ等での観光コンテンツの情報発信、現地の旅行博覧会などでのプロモーションを行うとともに、旅行商品の造成に向けて現地旅行会社の県内視察ツアーを実施するなど、本県へのインバウンドの回復、拡大に向けて取り組んでいるところです。